

名詞と名詞相当語句の働き

動名詞・不定詞の名詞的用法・that 節

NOUN

松宮思考研究室

A. 名詞は主語・目的語・補語となる

1. **Bob** plays tennis every day.

2. **Kim** is my friend.

日本語に主語と述語があるように、英語にも主語と述語があります。主部と述部とを考えても構いません。主語になれる資格のある品詞は**名詞**です。

英語では、述部の核は**動詞**です。動詞には多くの場合、**目的語**や**補語**が必要です。

1. **Bob** plays tennis every day. 「ボブは毎日テニスをします」

Bob は**名詞**で、**主語**となっていますね。多くの日本文で「～は」「～が」にあたる部分です。

play は動詞ですが、play の対象となるスポーツ名が**目的語 tennis**です。もちろん tennis は**名詞**です。多くの場合「～を」にあたる語句です。

like chocolate 「チョコレートが好き」、eat an apple 「リンゴを食べる」
make a PC 「パソコンをつくる」、fly a kite 「タコを飛ばす」の chocolate, (an) apple, (a) PC, (a) kite は、それぞれの動詞の目的語です。

2. **Kim** is my friend. 「キムは私の友達です」

Kim が主語。動詞が is です。is は be 動詞の現在形の1つの形で、be 動詞は“=”の記号の働きをしています。つまり主語の Kim と is の後ろの名詞(句) my friend は同一人物です。my friend のことを**(主格) 補語**と呼んでいます。

補語になれるのは形容詞系語句と**名詞系語句**です。

B. 代名詞は名詞の代理

3. My son loves his mother.

4. **He** loves **her**.

3. My son loves his mother. 「私の息子は、自分の母親が大好きです」

4. **He** loves **her**. 「彼は、彼女が大好きです」

son, mother は名詞なので、名詞句 My son, his mother は主語と目的語になります。実際そうになっています。

My son を代名詞で表すと、He となります。his mother は her です。

4の例文のように、名詞の代わりに**代名詞**も**主語・目的語・補語**となれます。

C. 名詞・代名詞は前置詞の目的語ともなる

5. I go to **school** with **John**.

6. We bought this bag for **you**.

5. I go to **school** with **John**. 「私はジョンと一緒に学校に通っている」

to や with, for などを**前置詞**と呼んでいます。前置詞は、名詞の「前に置かれる品詞」という意味です。つまり、前置詞が出てくれば、後方には名詞・代名

詞も出てくるということです。前置詞の後方に出てくる名詞・代名詞を「前置詞の目的語」と呼ぶことがあります。

もう少し後で説明しますが、動詞を名詞化した動名詞も前置詞の目的語になります。

6. We bought this bag for **you**.

「私たちはあなた（のため）にこのかばんを買った。

you は代名詞です。代名詞は名詞の代わりなので、前置詞の目的語になることができます。**for** が前置詞ですね。

練習問題 1 次の英文の名詞を丸で、代名詞を四角で囲んでください。日本語訳もやってみますか。

(1) I study English.

(2) They play tennis after school.

(3) She wrote a letter to him.

(4) Kim went to Hiroshima.

(5) I didn't go to school with Bob today.

(6) Ms Nakano teaches Japanese to us.

D. 動詞の目的語になる動名詞

7. I like **reading** books.

8. Did you enjoy **playing** baseball?

— Yes, I did.

7. I like **reading books**. 「私は本を読むことが好きです」

I like + I read books. → I like **reading** books.

主語が I と共通であることが必要ですが、このようにでき上ったと説明できます。日本語でも「本を読む」ならば動詞を含む述語として用言に使いますが、これを「本を読む**こと**」と体言にできます。「こと」を付けて名詞化できます。

英語の場合、動詞に-ing を付けて**動名詞**とします。この形は進行形で使われる現在分詞と同じですが、現在分詞が形容詞系の働きをするのに比べ、動名詞はその名の通り名詞として働きます。

正確に言うと、**reading books** と動詞の付属物も含めて**名詞句**として働きます。今回は名詞句 **reading books** が、他動詞 like の**目的語**になっています。

8. Did you enjoy **playing baseball**? — Yes, I did.

「あなたは**野球をすることを**楽しみましたか」 — 「はい、楽しみました」

→ 「あなたは、楽しく**野球を**しましたか」 — 「はい、しました」

名詞句 **playing baseball** が他動詞 enjoy の目的語になっています。

特に次の他動詞の目的語として動詞をふくんだ句を使いたい場合、動詞の形を動名詞にします。

stop 「…することをやめる」、finish 「…することを終える」
enjoy 「…することを楽しむ」、practice 「…することを練習する」

E. 動詞の目的語になる to 不定詞

9. I like **to read** books.

10. Do you want **to play** baseball?

— Yes, I do.

9. I like **to read** books. 「私は本を読むことが好きです」

動詞を名詞にする方法がもう一つあります。動詞の原形の前に **to** を置きます。この形を **to 不定詞の名詞的用法** と呼んでいます。

例文 9 は例文 7 と日本語訳が同じです。

to read, reading とともに「読むこと」という意味を出すことが可能です。**to read books** も **名詞句** になります。3語で **like** の目的語となっています。

10. Do you want **to play** baseball? — Yes, I do.

「あなたは野球をしたいですか」 — 「はい、やりたいです」

want は「欲しい」という他動詞です。「～することが欲しい」→「～したい」という意味になります。動詞を含む句を目的語にしたい場合、**to 不定詞** に導かれる句が目的語になります。（×）**want playing**。

to 不定詞 は、積極的で未来志向です。動詞の要素が色濃く残っています。

動名詞は、消極的で過去や現在の事実に基づいています。概念的で名詞により近い印象を受けます。

次の他動詞の目的語として動詞をふくんだ句を使いたい場合、動詞の形を to 不定詞にします。

want 「…したい」、hope 「…することを希望する」

wish 「…することを願う」、decide 「…することを決心する」

いずれも後ろに続く to 不定詞の実現に、強い気持ちを持っています。

例文 7 と 9 の like のように、to 不定詞を含む句と動名詞を含む句の両方を目的語とする他動詞は多くあります。「…を始める」という意味の begin や start もそうです。

It began **raining** this morning. 「今朝、雨が降り始めた」

She began **to write it with the pen**. 「彼女はペンでそれを書き始めた」

(三重県立高校平成 3 1 年度前期選抜試験より)

どちらを使うか、あまり気にする必要はないと思います。私も使い分けられるようなレベルにありません。

Last night I tried **to sleep**, but I couldn't.

「昨夜、私は眠ろうと努力した。でも眠れなかった」

Did you try **restarting the computer**?

(“Practical English Usage 3rd Edition” Michael Swan)

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~chick/books/english02.html#peu>

「コンピューターを再起動してみましたか」

try が to 不定詞に導かれる句を目的語とするとき、句の動作を頑張ってやってみたということが分かります。その動作が完了したかどうかは問いません。

try の目的語に動名詞に導かれる句を選んだ場合、目的を果たせるかどうかわからないけれど、試しにやってみたという感じが伝わります。

このように目的語の形によって意味が変わってくる try のような他動詞が、いくつもあります。英和辞典で **remember, forget** などを調べて、じっくり読んでみてください。今回に限らず普段の学習でも、教科書巻末の単語ページで意味だけ見るのではなく、少し時間をかけて英和辞典を読んでください。効率は悪そうにみえますが、英語の力をつけてくれる大切な学習法です。

練習問題 2 次の（ ）内の語句を適切な形にしてください。2語になる場合もあります。

- (1) My father stopped (drink) on weekdays.
- (2) I hope (see) you again.
- (3) He decided (go) to New York with his wife.
- (4) We enjoyed (watch) TV last night.
- (5) Did you finish (do) your homework?
- (6) She wants (eat) an apple pie.

練習問題 3 次の日本語を英文にしてください。

- (1) 私の母は、フランス語の勉強を始めた。
(「フランス語を勉強することを始めた」と考えて)

- (2) あなたは料理をすることが好きですか。
- (3) 私はテレビゲームをするのをやめた。(参考 : play video games)
- (4) 彼女は手紙を書き終えた。
- (5) 彼らは楽しく話した。(「話すことを楽しんだ」 ; 参考 talk)
- (6) 私はそのドアを開けようと努力した。
- (7) 私の妹は英語を話す練習をしています。

F.主語・補語になる名詞句

- 11. **Flying** a drone is fun.
- 12. **To do** your best is important.
- 13. My hobby is **collecting** old coins.
- 14. My dream is **to be** an astronaut.

11. **Flying a drone** is fun.

「ドローンを飛ばすのは楽しい」

←「ドローンを飛ばすことは楽しいことです」

Flying a drone 「ドローンを飛ばすこと」が主語です。Flying は動名詞ですね。

12. **To do your best** is important.

「ベストを尽くすことが大切です」

←「あなたの最善をすることは重要です」

To do your best が主語。To do は to 不定詞ですね。

11 の fun や 12 の important を **主格補語** といいます。この主格補語の位置に動名詞や to 不定詞に導かれる句が置かれることもあります。

13. My hobby is **collecting old coins**.

「私の趣味は古銭集めです」

←「私の趣味は古い硬貨を集めることです」

collecting が動名詞で、collecting old coins が名詞句を形成し補語となっています。

My brother is collecting old coins, 「私の兄は古い硬貨を集めています」

の collecting は現在分詞です。is collecting で現在進行形をつくっています。11 とは主語の名詞部分が hobby, brother と変わっているだけですが、内容から collecting の働きが変わってくるのです。「(×) 私の兄は古い硬貨を集めることです」では意味が通じませんね。現在分詞は形容詞系統の語で、主語のよ

うすや状態を表します。「集めている状態」なのです。片や、動名詞は名詞系統の語で「集めること」という意味になります。すでにご存知ですね。

14. My dream is to be an astronaut.

「私の夢は宇宙飛行士になることです」

←「私の夢は宇宙飛行士であることです」

My dream が主語、to be an astronaut が主格補語ですね。未来に向けてのことなので動名詞ではなく to 不定詞を使いました。

My dream is + I am an astronaut.

am, is, are, was, were という be 動詞の原形は be です。to の後ろは原形を置かなければいけません。不定詞というのは、周りの環境（主語が3人称単数だとか過去を表している文だとか）に左右されず変形しない元の形という意味です。

2年生のうちに“become...”「…になる」という語を習うので、be の代わりに become を置いても同じ内容を伝えられます。

練習問題 4 次の各日本語を英文にしてください。

(1) 彼の計画(plan)は、London に行くことです。

(2) 日本語を話すことは簡単です。.

(3) 重要なことは、きちんと謝ることです。

(きちんと謝る : apologize properly)

(4) そのボールをけるのは、易しいことではありません。(ける : kick)

(5) 私の大好きなことは、音楽を聴くことです。

(私の大好きなこと : My favorite)

練習問題 5 日本語の意味になるように () 内の語を並べ替えて、英文を完成させてください。

(1) 毎朝散歩することはあなたにとって良い (ことです)。

(morning, every, walk, a, taking, you, for, good, is)

(2) 私の趣味は絵を描くことです。

(my, painting, pictures, hobby, is)

(3) 良い友人を見つけることは難しい。

(good, friends, find, difficult, is, to)

(4) 私の夢はこのステージで歌うことです。

(dream, this, stage, sing, my, to, is, on)

G. 前置詞の目的語になる名詞句

15. She is good at **playing** the piano.

16. Thank you for **helping** me.

17. He left without **saying** anything.

15. She is good at **playing the piano**.

「彼女はピアノを演奏するのが得意です」

←「ピアノ（という特定の楽器）を演奏することに的を置いた場合、彼女は良いです」

at, in, on, for, by, with などの語は、前置詞でしたね。前置詞は名詞・代名詞の前に置く品詞でしたね。この名詞・代名詞の位置に、動名詞が来ることがあります。to 不定詞は来ることができません。to は前置詞でもあるため、前置詞＋前置詞と続くような感覚が受け入れがたいのでしょうか。

(×) She is good at to play the piano.

be good at...で「…が得意である」「…が上手である」という意味になります。

もちろん、……の部分に名詞（を核とした句）・代名詞を置いても構いません。

16. Thank you for **helping me**.

「手伝ってくれてありがとう」

←「私を助けることに対し、あなたに感謝する」

Thank you のあとに for... を続けることで、何について感謝するのかを伝えることができます。for は前置詞なので名詞・代名詞・動名詞（に導かれる句）が続きます。

Thank you. + You help(ed) me.

Thank you for your help. 「あなたの助力に感謝する」

でも同じ内容が伝わります。この文の help は「助力」「助け」「援助」という意味の名詞です。

17. He left without saying anything.

「彼は何も言わずに立ち去った」
←「彼はどんな何かを言うことなしに離れた」

without... は「…なしに」「…をしないで」という意味になります。with の反対の意味の前置詞です。out の部分が、not の意味を出しています。

He left with saying something. 「彼は何か言って立ち去った」
←「彼は何かを言うこととともに離れた」

. left は leave 「出発する」「離れる」「置いていく」の過去形です。「左(の)」と同じつづりですね。

練習問題 6 次の英文の（ ）内の語を適切な形に変えて、日本語に訳してください。

(1) We usually use this room for (eat) lunch.

(2) I am not good at (swim).

(3) I'm looking forward to (see) you again.

(4) Brush your teeth before (go) to bed.

H. 他動詞の目的語になる名詞節

18. I think **that** your daughters are very good.

19. Do you know **that** she doesn't like fish?

20. He didn't say **that** you were a liar.

18. I think **that** your daughters are very good.

「あなたの娘さんたちはとても良い子だと、私は思います」
←「私は、あなたの娘さんたちがとても良いことを、考えます」

I think + Your daughters are very good.

that は接続詞で、今回は後ろに続く節（せつ：主語と動詞を含み、1文として成り立つような句）と一緒にあって名詞節をつくっています。名詞節は他動詞 think の目的語になっています。

この that はよく省略されます。

I think so. 「私はそう思う」の代名詞 so が、that 節（that に導かれる名詞節）に置き換わったと考えると、構文が理解できると思います。

that に導かれる名詞節とは that your daughters are very good のことです。以降は「that 節」と呼んでいくことにします。that の接続詞という意味ではないので、誤解しないようにお願いします。

19. Do you know **that she doesn't like fish?**

「彼女が魚を好きじゃないと、あなたは知っていましたか」

←「あなたは、彼女が魚を好きではないことを知っていましたか」

that 以降の節が名詞節で、know の目的語になっています。もちろん that は省略できます。

こちらでも Do you know **it?** 「あなたはそれを知っていますか」の代名詞 it が that 節に置き換わったと考えてください。

20. He didn't say **that you were a liar.**

「あなたがうそつきだとは、彼は言っていない」

←「彼は、あなたがうそつきですということを、言わなかった」

これは間接話法と言って、その場の発言の内容を取りまとめて伝える表現です。実際には、“(you で表されている人物の名前か代名詞) is a liar.” という発言が想定されています。

仮にその人物を Susan だとすると、直接話法を使って、

He didn't say, “Susan is a liar.” となります。

間接話法にすると、that 節内の現在形の動詞は、主節の didn't say という過去形に合わせて過去形になります。これを時制の一致と呼んでいます。

会話文中の主語 Susan は、that 節内では you になっています。これは人間関係をその場にあったように整理し直しているためです。そのため be 動詞も were になっています。

この文は中学生では、やりすぎかもしれないので、理解できなければ無視するか、さらなる説明を求めてください。

that は省略できます。

練習問題 7 () 内の語句を並べ替えて、日本語に合う英文を完成させてください。

(1) 私はあなたがとても親切だと思う。

(kind, think, you, very, are, I)

(2) あなたはそれができると私は思います。

(you, it, can, I, do, think, that)

(3) 彼女が犬を1匹飼っているのを私は知っています。

(she, a dog, has, I, know)

(4) 彼女は、私がピアノを演奏しないことを知っています。

(she, I, the piano, play, don't, knows)

(5) 彼は私をきれいだと言った。

(he, I, beautiful, said, was, that)

I . Sure のあと等の that 節

21. I'm sure **that** I left my bag on the bus.

22. She is afraid **that** you can't come to the party.

I'm sure that I left my bag on the bus.

「きっとカバンをバスに置き忘れてきたんだよ」

←「私は、私がバスの上に私のバッグを離したことを確信している」

sure や **afraid** は動詞ではなく形容詞なので、原則として目的語は取りません。しかし、例文 21 では、**that** 節は「私がバスにカバンを置き忘れたこと」と名詞節（日本語では体言の連文節？）の意味を出しています。

“**be** 動詞+**sure**” で、実質的に他動詞になっていると考えようという意見があります。他動詞なので目的語を取れるという理屈です。そうすれば、**that** 節は目的語で、名詞節として働いていることになります。

よく使われる **sure** の語法として、後ろに **of** や **about** が続く形があります。

I'm sure of the answer. 「私はその解答に自信を持っている」

Are you sure about that? 「あなたはそのことについて確信がありますか」

of the answer, about that はともに副詞句と考えられます。

例文 21 と 22 は、この構文の発展型と解釈する考え方があります。21 の例文は、

I'm sure (of it) that I left my bag on the bus. または、

I'm sure (of the fact) that I left my bag on the bus.

という英文のかっこ内を省略したものであるとする考えです。2年生の1学期の段階では、理解するのが難しいのですが、**it** と **that** 節、**the fact** と **that** 節は同じことの言い換えです。**it** が代名詞、**the fact** が「冠詞+名詞」なので、それらの言い換える **that** 節も名詞系の語句になります。つまり名詞節と呼んで差し支えないとしています。

of it that I left my bag on the bus 全体は副詞系の語句ですが、前置詞 **of** の目的語の **it, the fact** は、それぞれ代名詞、名詞句なので、それと同じものを指している **that** 節も名詞節となるわけです。

3番目の意見は、例文 21 と 22 で使われている **that** 節は、先ほど例を示した **of the answer** や **about that** の位置に置かれています。これらは副詞句なので、**that** 節も副詞節で良いのではないかというものです。

いずれにしても、**sure** の後ろには **that** 節が続くことがあると記憶しておいてください。この **that** も省略できます。

22. She is afraid that you can't come to the party.

「あなたがパーティーに来られないんじゃないかと、彼女は心配している」

←「彼女は、あなたがそのパーティーに来ることができないことを心配している状態です」

形容詞 **afraid** も、**She is afraid of snakes.** 「彼女は蛇が怖い」 ← 「彼女は蛇のことを恐れている」という構文が可能です。この “**of+名詞**” の代わりに、**that** 節も使えます。その場合でも **that** は省略できます。

She thinks that you can't come to the party.

「彼女は、あなたがパーティーに来られないと考えている」

という英文も作れます。“**be afraid**” は、良くないことを考えたり想像したりするときに使われる言葉で、考えたり思ったりする点では **think** と変わりませんね。**that** 節の働き自体変わらないのです。

どんな形容詞でも **that** 節が続くということはないので、出てきた都度その型を覚えていってもらいしかないとします。言葉ですから。

この辺りをもっと突っ込んで研究したい方は、協力します。知らせてください。

練習問題 8 次の各日本語を英文にしてください。

- (1) 私は彼女が幸せだと確信しています。
- (2) 私はそれが良いアイデアだと確信しています。
- (3) 私は彼女が病気なのではないかと心配しています。

練習問題 9

次の英文は、イギリスの国営放送 BBC のウェブニュースに掲載されていた一文です。日本語に訳してみましよう。

Last week Naomi Osaka said she didn't want to do interviews to protect her mental health....

<https://www.bbc.co.uk/newsround/57327020>

イギリス BBC の Newsround の 2021 年 6 月 2 日の記事

Naomi Osaka: The four Grand Slams want to support players' mental health
から

(参考 : to protect her mental health の文法説明はまだ行っていません。「彼女の精神の健康を保護するために」という意味になります。2年生のうちには出てくる to 不定詞の副詞 (的) 用法というものです)



おまけ：主語・補語になる that 節

H で「他動詞の目的語になる名詞節」というのを学びましたね。

名詞節は名詞の働きをするものなので、主語にも主格補語にもなります。他動詞の目的語ほど目にする機会はないかもしれませんが、ここで紹介しておきます。

23. **That he didn't come here** is strange.

「彼がここに来なかったのは、不思議です」

「彼がここに来なかったことが、奇妙です」

このように、名詞節の **that** 節は、文の主語になることができます。多くの場合、**It's strange that he didn't come here.** と形式主語の **it** を置いて、真の主語である **that** 節は文の後ろに回します。それでも例文 23 は正しい英語です。

もちろん主格補語にもなります。

24. The trouble is **that she knows it.**

「困ったことに、彼女がそのことを知ってしまったのです」

「その困ったことは、彼女がそれを知っていることです」

主語は **trouble** 「困ったこと」「トラブル」で、**be** 動詞に続く補語が **that** 節となっています。これは名詞節です。

おまけは履修範囲ではありませんが、このように文の主語に成る語句にはどんなものがあるのか？ どんな種類の語句が補語になれるのか？ 他動詞の目的語はどんな語句か？ 前置詞の目的語として認められている語句は何か？ これらのことを自分の頭の中に整理して収めておくと、英語学習の強力な武器になります。

説明が難しいものもありますが、編集人はみんなが疑問に持ちそうなことにも説明ができるように、いろいろ考えながら英文をみてきました。疑問に思ったことがあれば質問してみてください。

一度編集人の作成したサイト Chick Tack 英語 5 文型を訪問してください。

<http://www5d.biglobe.ne.jp/chick/>



練習問題の解答例

練習問題 1

- (1) I study English. 私は英語を勉強しています。(私は英語を勉強します。)
- (2) They play tennis after school. 彼ら [彼女たち] は放課後、テニスを行います。
- (3) She wrote a letter to him. 彼女は彼に手紙を書きました。
- (4) Kim went to Hiroshima. キムは広島へ [に] 行きました。
- (5) I didn't go to school with Bob today. 私は今日、ボブと一緒に学校に [へ] 行きませんでした。(この文の today は時を表す副詞です)
- (6) Ms Nakano teaches Japanese to us. 中野先生は私たちに英語を教えています [教えます]。(Nakano だけでも正解とします)

練習問題 2 次の () 内の語句を適切な形にしてください。2 語になる場合もあります。

- (1) My father stopped **drinking** on weekdays. (stop の目的語は動名詞)

私の父は、平日にお酒を飲むのをやめた。

- (2) I hope **to see** you again. (hope の目的語は to 不定詞)

私は再び [また] あなたに会うことを希望しています。

私はもう一度あなたに会えると良いなと思います。など

- (3) He decided **to go** to New York with his wife. (decide の目的語は to 不定詞)

彼は妻 [奥さん] と一緒にニューヨークに行くことを決めた。

彼は奥さんと一緒にニューヨークへ行く決心した。など

- (4) We enjoyed **watching** TV last night. (enjoy の目的語は to 不定詞)

私たちは昨夜、テレビを見て楽しんだ [見ることを楽しんだ] 。

昨夜私たちは、楽しくテレビを観た。など

- (5) Did you finish **doing** your homework? (finish の目的語は動名詞)

あなたは宿題をやり終えましたか。

あなたは宿題をやることを終えましたか。など

- (6) She wants **to eat** an apple pie. (want の目的語は to 不定詞)

彼女はアップルパイを食べたがっている。など

練習問題 3 次の日本語を英文にしてください。

- (1) My mother began[started] to study French. または

My mother began[started] studying French.

- (2) Do you like to cook? または Do you like cooking?

- (3) I stopped playing video games. (そういう習慣をやめた)

I finished playing video games. (一時的にやり終えた)

下の場合 games よりも a game や the game の方がふさわしいか。

- (4) She finished writing a letter.
- (5) They enjoyed talking.
- (6) I tried to open the door.
- (7) My sister practices speaking English. または
My sister is practicing speaking English. など

練習問題 4 次の各日本語を英文にしてください。

- (1) His plan is to go to London. または His plan is going to London.
- (2) Speaking Japanese is easy. または To speak Japanese is easy..
It's easy to speak Japanese. (これはまだ教えていない)
- (3) The important thing is to apologize properly.
The important thing is apologizing properly.
- (4) Kicking the ball isn't easy. または To kick the ball isn't easy.
- (5) My favorite is to listen to music、または
My favorite is listening to music.

favorite は形容詞の使い方もありますが、名詞にもなり「大好きなこと」「大好きなもの」という意味になります。名詞なので主語と成れます。

練習問題 5 日本語の意味になるように () 内の語を並べ替えて、英文を完成させてください。

- (1) Taking a walk every morning is good for you.
- (2) My hobby is painting pictures.

- (3) To find good friends is difficult.
- (4) My dream is to sing on this stage.

練習問題 6

- (1) We usually use this room for **eating** lunch.

私たちは普通、昼食をとるのにこの部屋を使います。

私たちは昼食を食べるために、普段この部屋を使います。

- (2) I am not good at **swimming**.

私は泳ぐのが得意 [上手] ではありません。

- (3) I'm looking forward to **seeing** you again.

私は、再びあなたに会えるのを楽しみにしています。

(この to は不定詞の前のものでなく前置詞です)

- (4) Brush your teeth before **going** to bed.

寝る前に歯を磨きなさい。

← (ベッドのところに行くことの前にあなたの歯を磨け)

練習問題 7

- (1) I think you are very kind.
- (2) I think that you can do it.
- (3) I know she has a dog.
- (4) She knows I don't play the piano.
- (5) He said that I was beautiful.

練習問題 8 次の各日本語を英文にしてください。

(1) I'm sure (that) she is happy. I'm は I am、she is は she's も可。

(2) I'm sure (that) it's an good idea. I'm は I am、it's は it is も可。

(3) I'm afraid (that) she is sick.

I'm は I am、she is は she's、sick は ill も可。

練習問題 9

(日本語訳例) 先週、大坂なおみは自分の精神的な健康を守るために会見をしたくないと言いました。

大坂なおみは先週、自身の精神の健康を保護するため、インタビューを受けたくないと発言しました。

said と she の間には that を入れることができます。she didn't...は said の目的語で名詞節です。話した内容が書かれています。

to do interviews は、他動詞 want の目的語です。



2021年6月9日 初版第1刷

©2021 松宮思考研究室

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~chick/mit/index.html>